

ニーズ・シーズマッチング地域交流会2025in佐賀

重度障害者の生活・学業・就労の 支援について考える

西九州大学

デジタル社会共創学環/リハビリテーション学部/新学部設置準備室



准教授 植田友貴

障害者自立支援機器

10月21日(火) ニーズ・シーズマッチング地域交流会
10:00~16:00 ATA サテライト佐賀会場

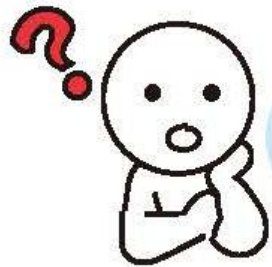
テーマ 重度障害者の生活・学業・就労の支援について考える

座長 西九州大学 デジタル社会共創学環
リハビリテーション学部
新学部設置準備室

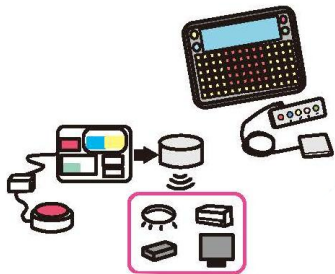


コロナ禍以降支援の輪が途切れてしまった

きっかけはコロナ禍



コロナ禍
相談が来なくな
った



コロナ5類後
相談が来る
ようになった

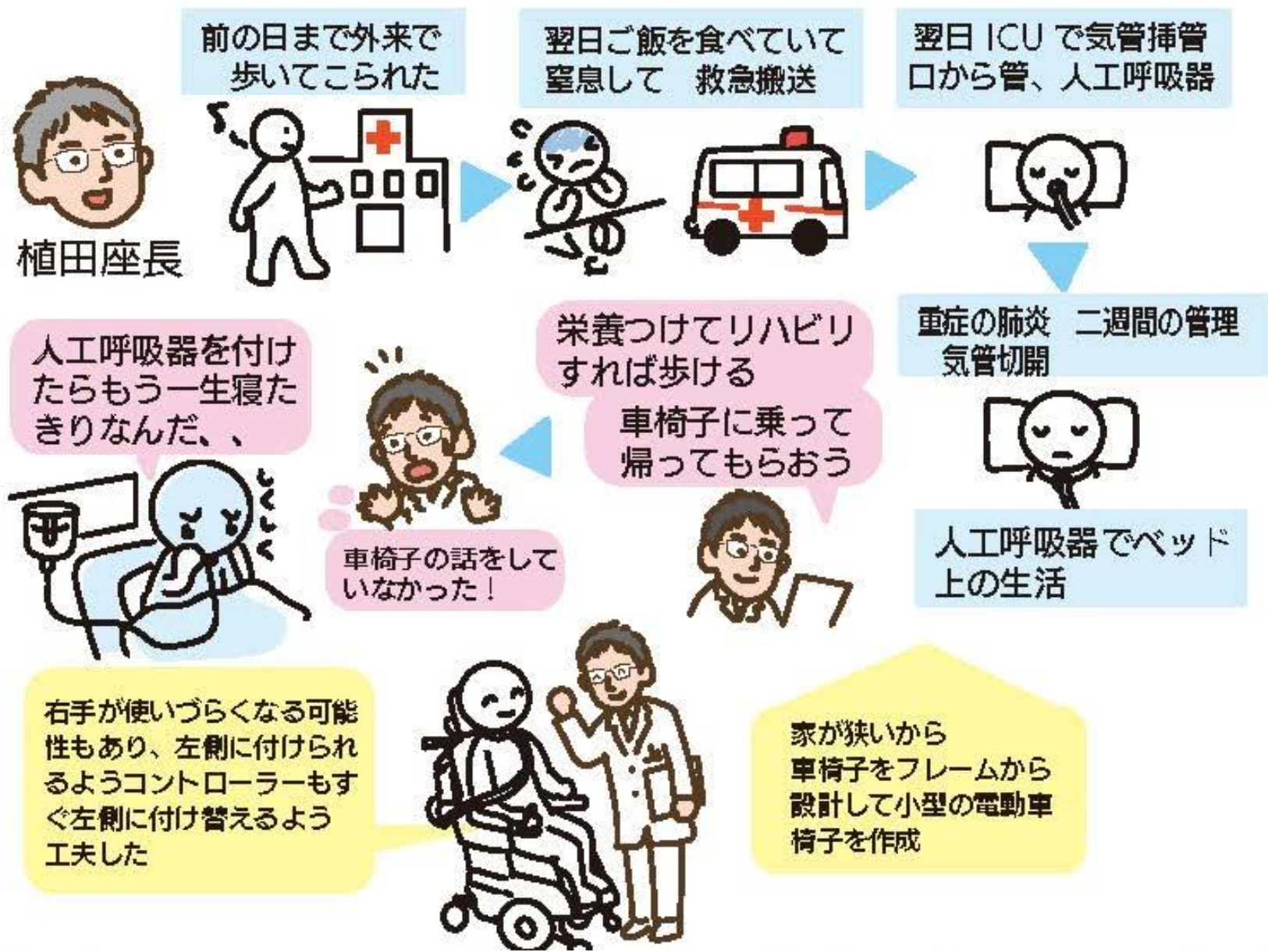


5年間おそらく支援の手が必要だったところも
あったのでは、今でも困っている方もいるのでは

コロナ5類移行後は相談件数も徐々に戻っているが、
地域のネットワークが【10年程度は逆行した】印象

機器に関する思いのお話 いろんな機器があるのに知らないエピソード

エピソード1



- 人工呼吸器を装着すると寝たきりになると思っていた
- 実際は、電動車椅子等で外出も可能だった

機器があるということを知らないという事で不安も大きくなりストレスになる

エピソード2

脊髄損傷の方在宅生活



骨盤の骨が見えるほど
すごい褥瘡ができて
いた
座っていたく車椅子は
除圧のクッションを
使っていなかった
褥瘡の手術を受ける

ご本人に合う車椅子
クッションを買った
自分で車椅子に移動できる



外出もできるようになった

適切な道具があれば重度の障害がある方
でもアクティブな生活を送る事ができる

コロナ禍で相談がなくなった時期
困っていた方がいたのでは？

福祉機器用具が
まだまだ知られていない

- 病歴と自宅生活が長く、**除圧クッションが必要という情報を長期間得られていなかった**
- 手術後に適切な機器導入で生活が一変した

テーマ

「重度障害者の生活・学業・就労の支援について考える」

- 地域の繋がりをリスタート
- 参加者は佐賀県を中心に，幅広く募集
- 参加者
 - ニーズ側（当事者，当事者家族）
 - シーズ側（支援団体関係者，医療福祉関係者）
 - その他関係者が参加

ネットワーク形成を重視した企画を展開

プログラム1

- ・参加者自己紹介

プログラム2

- ・機器体験会

プログラム3

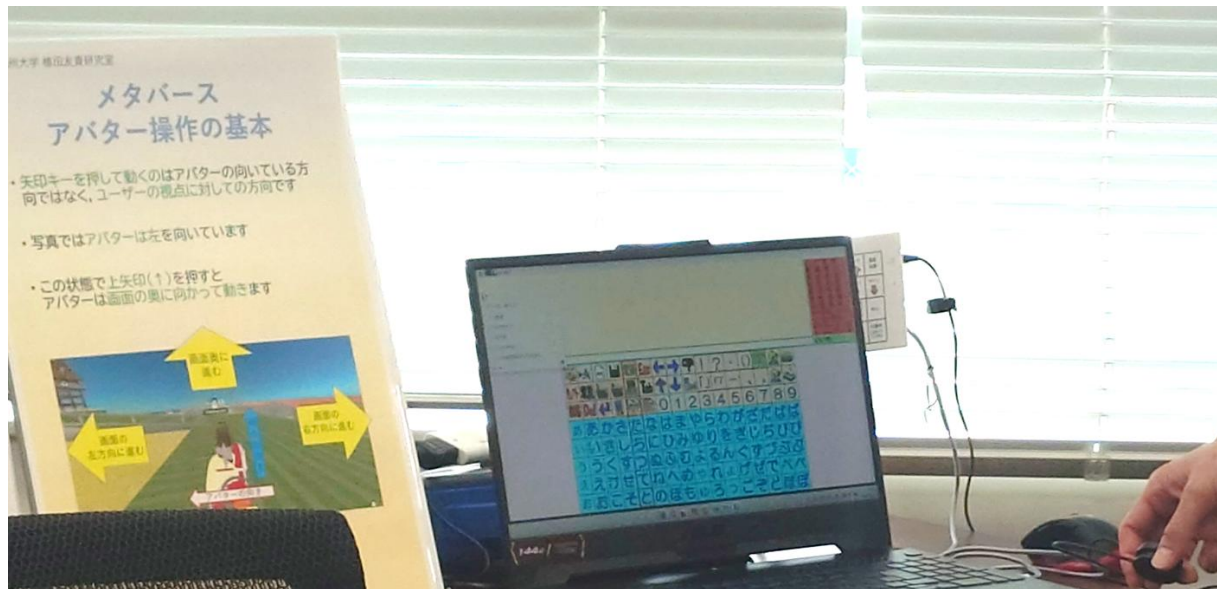
- ・グループワーク

プログラム1：参加者自己紹介

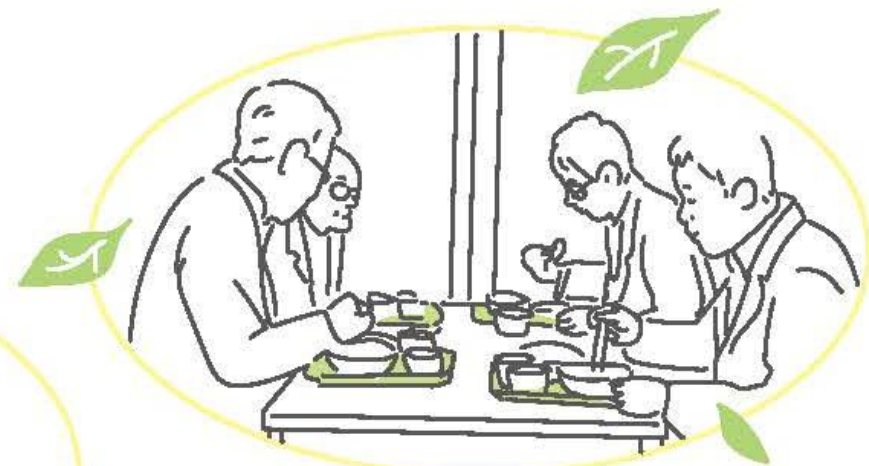
- 自己紹介だけでなく，問題提起や地域の実情なども共有
- 自己紹介で気になった話題
 - 重度障害者の保護者
 - ○○さんにも関わってもらっていて，
 - いま困ってることはないんです

プログラム2 機器展示





昼食はみんなで学食へ



昼食 学食にて

ワークショップ グループワーク

A 班 就労での困りごと

いろんな所で補助・サービスが使えない



移動支援が使えない



H 氏
福岡市でできる事が
佐賀ではできない事が
ある
地域格差がある

介護保険が仕事で使えない

訪問介護の支援がないと仕事に行けない！！

A班

佐賀県のなかでも市町村で
格差がある
改善できないか？



電動義手の時も多くの
資料が必要で、やっと
認めてもらった



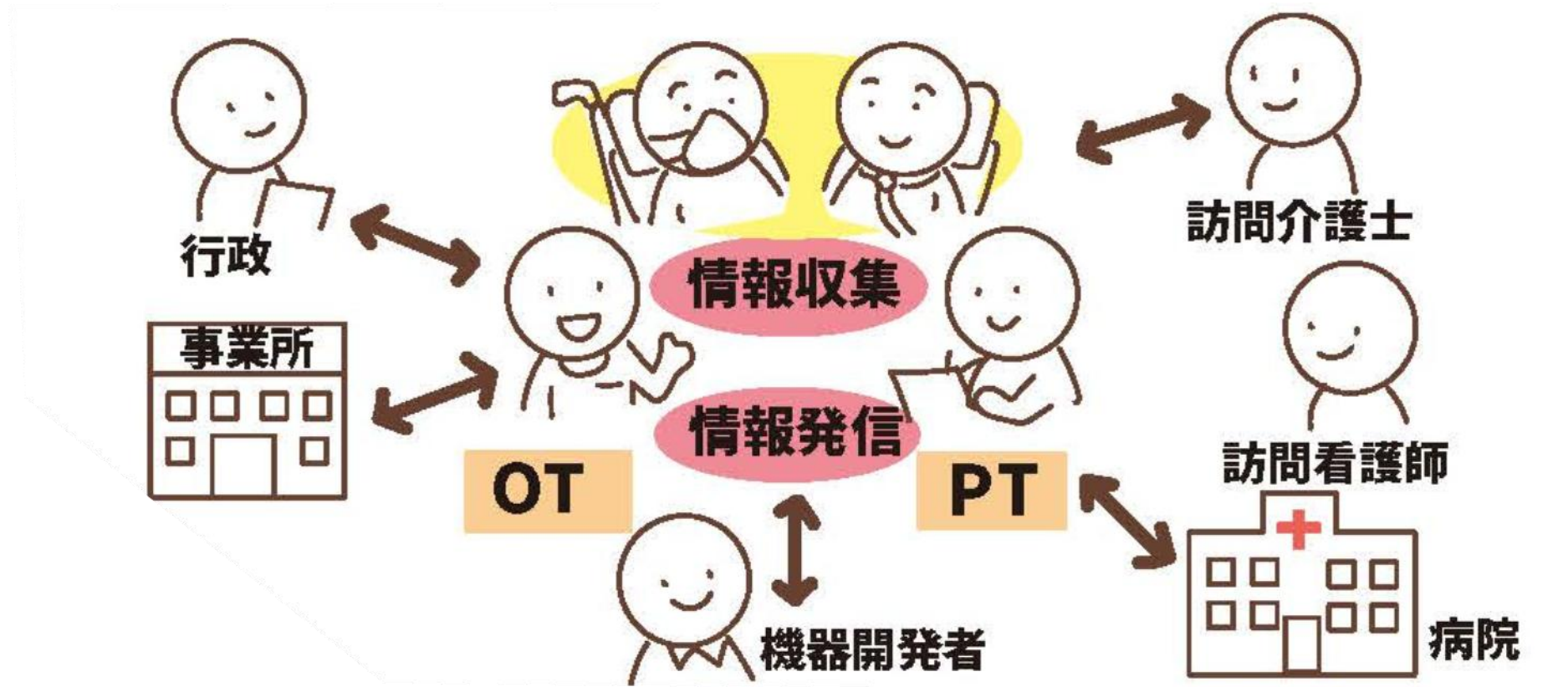
地域格差がある（時間なども）
サービスが使えないと仕事がで
きない……
前例がないと言われ断られる…



サービスの地域差解消が必要
他地域との情報共有が必要

事業所不足・ヘルパー不足・働きたいのに働けないを
解決するために

横の繋がりとコーディネーターを作る



ワークショップ グループワーク

B 班 困りごとの解決



Yさんのお子さん
のお話から

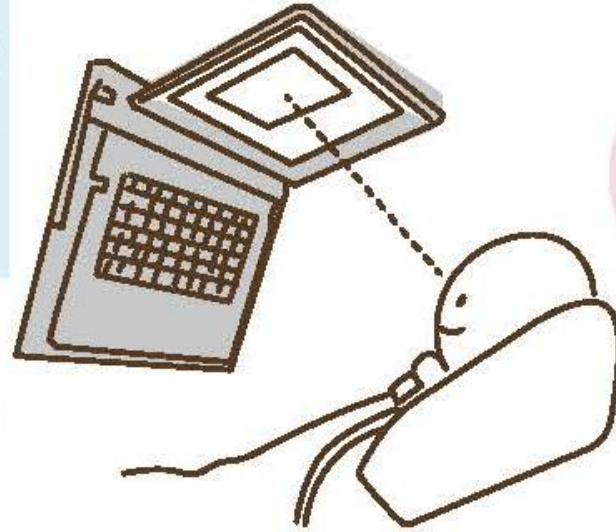


B班



病院に入院中、松尾先生と出会った縁で車椅子作成をお願いした。
こちらの要望を全部聞いてくれたうえで落とし所をみつけてくれた

視線入力装置は
自分で調べたりし
て導入している



日常生活用具は県庁、
市町村の村役場が手続
きを教えてくれたので
スムーズに行えた

福祉課



現場のニーズが開発に
入ってくれるとよい、
作ったものが本当にフ
イットするかわからな
いというところがある

開発側



開発する側としては
要望をすべて言って
もらう方がスムーズ
に開発する事ができる

B班



病院に入院中、松尾先生と出会った縁で車椅子作成をお願いした。
こちらの要望を全部聞いてくれたうえで落とし所をみつけてくれた

視線入力装置は

自分
で選

日常生活用具は県庁、

植田研究室

早期にニーズとシーズが出会えると
問題解決や新技術開発が早い

入ってくれるとよい、
作ったものが本当にフ
イットするかわからな
いというところがある



要望をすべて言っ
てもらう方がスムーズ
に開発する事ができる

ニーズからシーズへ情報を伝える

- 展示会で直接話す
- 研修会で情報を仕入れる
- 学んだ知識を訪問現場に持ち込めるような研修



連絡の取り方の理想形

- 福祉機器販売企業と当事者をつなぐ**コーディネーター**
- ビジネスモデルとして**お金の話**は**必須**であるため、専門家の介入があるとスムーズ
- 当事者の話をまとめてくれる**コーディネーター**は**開発者側**にも**メリット**が大きい



C班

ワークショップ グループワーク

C 班

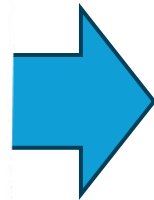
お子さんの生活
就労問題について



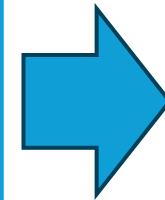
安心して生活するためには 人材確保と離職予防が重要

困りごと1

お子さん 13 歳 体重 16 キロ
ショートステイが不足しており、
お母さんが信頼して預けられる先がない



対応できる
事業所に
利用者が殺到



疲労から
離職
(廃業)



かかりつけ医以外に安心して預けられる利用所がない
ため利用を 10 年間待っている

困っている自覚がなかったケース

- 冒頭で困っていないと話していた保護者の方
- 実際は【レスパイト入院先がなく10年待っている】
 - レスパイト先に申し込むも10年待って順番が回ってこない
- 本当は困っていたが本人と保護者が頑張っていて表面化していなかった
 - 困っている自覚がなかった
 - 植田（座長）も関わっているお子さんでした

困りごと2

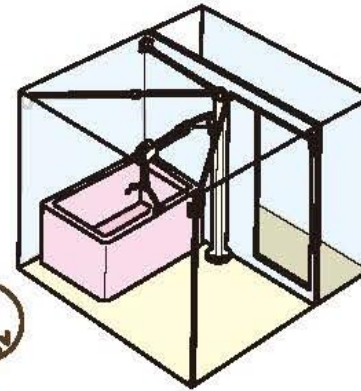
放課後デイサービスでも時間帯が限られ、
医療的ケアもあり家族生活にも支障がある

お風呂でお子さんを抱っこして洗っている
浴室が狭くシャワーキャリーは入らない



体重が20キロを超
えると介護者の腰へ
の負担が大きくなる
支援機器を使える
環境作りが必要

スライディングシート・リフトなど
費用がいる
20万+佐賀市ではリフト導入に50万の
補助が出ている。



環境改善が必要

介護事故から離職を防ぐための
環境改善が急務

特定の保護者会・患者会だけではない 横のつながりを増やしていく

お母さん達だけで情報共有するのではなく、もっと困っている人達がいるのでは？その人たちを支援する支援者、学校、機器開発グループで情報をかき集めて発信が必要！！

本人たちの交流の場
要望や新しい問題点
が出てくる

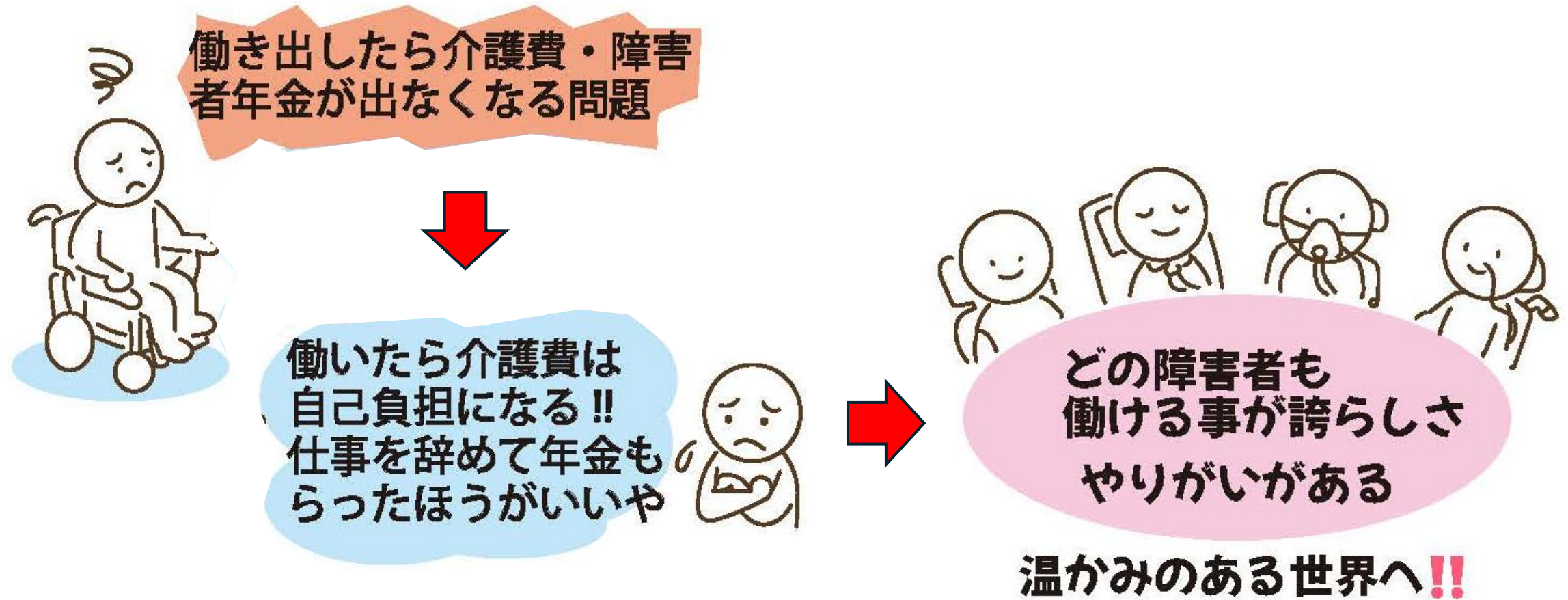


行政側への
投げかけ



行政側の生きた
協力も引き出せる

C班



障害者ではなく，納税者を目指せる制度作り

グループワークのまとめ



植田氏

共通するもの

情報をどう仕入れるか

情報をどう提供していくか

どう共有していくか
本日皆さんがお集まり
いただきひとつのネット
ワークができました



制度の見直し

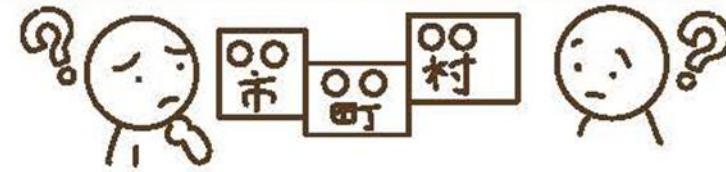
制度について教えてもら
える部分もあったが



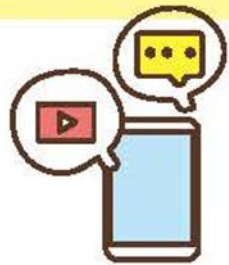
自分で調べなくては
いけない部分もある



他の市町村の情報はいってこない



情報を収集する



情報を広げる

情報を共有する



情報共有ネットワークを作る


県内 北部九州 西日本



地域ごとのキーマンの育成

今後のアクション

リスタートした繋がりを広げていくために（決意表明）

- メーリングリストで繋がりを広げていく
 - 予算がなくてもできることから 
- **繋がりのカタチ**を増やす
 - ニーズとシーズの繋がり
 - ニーズ間の交流
 - シーズ間の情報交換

